



### 特別企画展示のご案内

＜シリーズⅣの紹介＞

昨年の6月から開催してきました、特別企画展示「幕末明治からのメッセージー激動の時代を彩った人々ー」は、9月1日から最終シリーズを迎えることになりました。



【シリーズⅣ チラシ】

このシリーズⅣは総集編として、これまでに展示いたしました幕末明治の先人たちの遺墨や関係資料を一斉にご紹介するほか、当館では初出陳となる資料も今回ご覧に入れます。

また、特別企画展示に関連して、参観者の方々に、幕末明治の先人たちに宛てたメッセージの記入をお願いしました。



その中からメッセージの一部をご紹介します。

坂本龍馬様『日本の洗たくをもう一度お願いします』、西郷隆盛様『西郷どんやっています。ドラマがんばってください』。そして、もっとも多かったメッセージは、先人たちの行動、熱意に感謝する言葉でした。

ロングランで開催してきた特別企画展示・シリーズⅣ総集編は、本年12月27日(木)まで開催しています。



西郷隆盛書 屏風「獄中感有り」

常設展資料紹介「田中正造の足尾銅山鉍毒についての質問書及び政府答弁書」

当館 2 階、憲政の歩みコーナーでは「田中正造の足尾銅山鉍毒についての質問書及び政府答弁書」を展示しています。これは、衆議院議員の田中正造が、帝国議会に初めて足尾銅山の鉍毒問題について提出した質問書と、これに対する政府の答弁書です。



田中正造の足尾銅山鉍毒についての質問書と政府答弁書

栃木県にある足尾銅山は、明治初期、民間に払い下げられて以来、産出量が激増しました。廃棄された大量の鉍毒が渡良瀬川を汚染し、魚を死滅させ、流域の田畑の作物を枯死させるなど、重大な問題となりました。特に渡良瀬川の洪水があった後は一層被害が拡大しました。

田中は、1841 年（天保 12）現在の栃木県佐野市に生まれ、1880 年（明治 13）栃木県会議員に当選し、以後 10 年間県会議員を務めました。1890 年（明治 23）第 1 回衆議院議員総選挙で栃木 3 区より当選後、翌年 12 月、第 2 回議会で足尾銅山鉍毒問題に関する質問書を提出し、初めて議会で足尾銅山の鉍毒問題を取り上げました。

展示されている質問書では、足尾銅山から流出する鉍害が渡良瀬川沿岸の各郡

村に巨万の損害を与え、渡良瀬川沿岸の被害は法律及び条例上農商務大臣の許可取消事由に当たることが指摘され、これを放置する政府への責任追及をすることができます。質問書提出後、田中は演壇でも、群馬県及び栃木県の渡良瀬川沿岸の田畑で「二年モ三年モ穀物ガ取レナイノdeal、殊ニ昨年ノ二十三年ト云フモノハ、一粒モ登ラナイ、登ラナイノミナラス、物ガ生ヘナイノdeal」「人民ニ、スクノ如キ害ヲ與ヘルコトノ見エナイト云フノハ、ドウ云フコトdeal」<sup>1</sup>など、鉍毒除去、損害の救済、鉍業許可の取消について政府に対し度重なる追及を行いました。

政府は、この質問書に対し、議会解散後に答弁書を官報上に掲載し「渡良瀬川沿岸ニ於ケル耕地ニ被害アルハ事実ナレドモ其被害ノ源因ニ就テハ未ダ確實ナル試験ノ成績ニ基ケル定論ノナルニアラズ」とし、鉍業人は鉍業上可能な予防を実施し、独米両国からの粉鉍採集器を購入設置により一層の流出防止策を準備すると答弁しました。しかし翌年政府は「其既往ノ損害ノ如キニ至テハ行政官ハ之ニ對シ何等ノ処分ヲナスノ職権ヲ有セサルモノトス」<sup>2</sup>との答弁書も出しました。その後被害は止まず、抗議運動への妨害が起こりました。

1901 年（明治 34）、田中は議員を辞職し、明治天皇に直訴に及びます。

<sup>1</sup> 衆議院第 2 回通常会議事速記録第 23 号(明治 24 年 12 月 25 日)

<sup>2</sup> 第 3 回帝国議会衆議院議事速記録第 25 号(明治 25 年 6 月 10 日付政府答弁書)

## 憲政史回顧 —政党内閣の実現—

2018 年（平成 30）は、明治維新から 150 年の節目の年にあたり、全国各地でさまざまな催しが企画されています。

明治維新に功のあった薩長を中心とした藩閥政府が実権を握り、国家体制の変革という大事業に挑んだ激動の明治、その後訪れた大正の世は、政治、教育や文化などの各分野にいわゆるデモクラシーの気運が広く浸透した時代でもありました。その象徴的事例の一つとして挙げられるのが、議会で多数を占める第一党を基礎とした政党内閣の実現です。このとき首相の座に就いたのが原敬でした。

それまでも板垣退助・大隈重信による隈板内閣や、伊藤博文が創立した立憲政友会を基礎とした第 4 次伊藤内閣などがありましたがいずれも短命に終わっていました。一方でこれらの試みを通じ、模索を重ねながらも政党は着実に力をつけていきました。

戊辰戦争で敗北した南部藩の出身で、維新の苦難を体験していた原は、伊藤の誘いをうけ政友会結成に参加し、早くから要職を担います。1902 年（明治 35）には衆議院議員総選挙に初当選し、次第に党の実権を掌握して、1914 年（大正 3）には西園寺公望から総裁を継ぎました。政党内閣の実現をめざした原は、藩閥勢力に対してただ徒らに反対の立場をとるのではなく妥協点を探り、表裏に通じて周到に政界を操縦していきます。藩閥勢力を率いた山県有朋も原の政治的手腕には一目置いていたといえます。

全国に波及した米騒動などに処しきれ

ず寺内正毅内閣が総辞職すると、後継に推された西園寺はこれを固辞し原を推薦します。あくまで政党否定の立場を崩さなかった山県もついに原内閣誕生を容認しました。

こうして陸軍・海軍・外務大臣を除く全ての閣僚を政友会の党員から選んだわが国初の本格的政党内閣が組織されます。このことは、変化を重ねながらも連綿と続いてきた憲政史の大きな転換点となり、国民からも歓迎されました。『原敬日記』にはこの内閣実現に至るまで、またその後にあっても原が山県や西園寺ら元勲や、意を異にする勢力との交わりを欠かすことがなかった様子が記されています。原は卓越した指導力を発揮して積極政策を推し進め、その後 3 年にわたる長期政権を維持していくことになります。

時に 1918 年（大正 7）9 月、維新から 50 年の時が経過していました。今から 100 年前の出来事です。



原敬肖像及び書「安養」（憲政記念館所蔵）

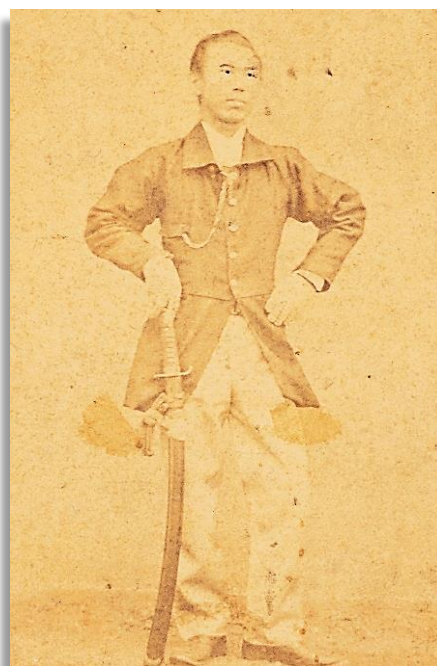
## 赤松小三郎の議会論 ー建白七策からー

今回の特別企画展示では、幕末の洋学者で信州上田藩士の赤松小三郎（こさぶろう）が、大政奉還前に薩摩藩へ提出した国家構想のレプリカを紹介しています。

赤松の建白は、内閣制度の導入や選挙による二院制議会（議政局）の設置、政府（天朝）の拒否権に対する議会の優越など、議会論としても踏み込んだ内容になっています。

当時、言路<sup>1</sup>（げんろ）が開けてきたとはいえ、国家構想を申し述べることは、大変勇気のいる行動でした。この資料は、自分の使命として国の新しいあり方を実現しようとした人がいた証しでもあります。是非ご覧ください。

<sup>1</sup> 目上の人に意見を述べる手段。



【赤松小三郎肖像】

## 「平成 30 年夏休み企画」の結果報告

7月23日から8月24日まで開催いたしました「平成30年憲政記念館夏休み企画」は、盛況のうちに無事終了いたしました。期間中は、多くの皆さまにご来館いただき、誠にありがとうございました。

「よみがえれ！幕末明治の時空選挙」では、来館者の方に、政治を託したい幕末明治の偉人に投票していただきました。選挙の結果は、第1位「坂本龍馬」、第2位「福沢諭吉」、第3位「田中正造」となりました。

【投票風景】→

「憲政ハンター」「憲政パズル」は子どもたちを中心に、楽しそうに挑戦する姿が見受けられました。

本企画を通じて、憲法や議会制度また幕末明治の偉人に関心を持っていただけましたら幸いです。



【発行人】  
【編集責任者】

三橋 善一郎  
高橋 和彦

【印刷・発行】 衆議院事務局 憲政記念館  
〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-1-1  
TEL : 03-3581-1651 FAX : 03-3581-7962

本紙について、私的利用・引用等著作権法で認められた行為を除き、無断で改変・転載・複製を行うことはできません。引用される場合には出所を明示し、また、転載等を行う場合にはあらかじめ当館へご連絡ください。